

2017年度 適性検査

「国語の読解力」

【大問1】 次の各設問に答えなさい。

(全12問／配点70点)

問1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

野球でもサッカーでもゴルフでも、勝利者インタビューの常連選手というのは、あまり勝ったことや勝因を誇らしげに語ったりはしない。「自分のやるべきことをやっただけ」「自分たちのサッカーができた」「まだまだ修正すべき点はある」こういうインタビューの答えをよく聞くことだろう。

マラソンの^{たかはしなおこ}高橋尚子選手、柔道の^{たにりょうこ}谷亮子選手、野球のイチロー選手、ゴルフのタイガー・ウッズ選手などは、その勝利が決して、相手に勝つために何かをしたからではなく、自分が何をしたかの結果であることをよく知っているのだ。

勝負は相手があることなので、そもそも勝つことは強制したり、約束したりしてできることではない。例えば試合でも、「勝たなければならない」とか、「絶対に負けられない」となると、緊張して体が固くなり、実力が発揮できなくなってしまうことがよくある。できることは唯一、。勝利はあくまでその最高のパフォーマンスがもたらした結果なのだ。

(原口佳典『人の力を引き出す コーチング術』)

問い：空欄に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 自分の修正すべき点を発見し、解決することだけ
- ② 対戦相手に応じたパフォーマンスをすることだけ
- ③ できるだけ緊張せず、実力を発揮することだけ
- ④ 自分の最高のパフォーマンスを発揮することだけ
- ⑤ 勝つことを約束して自分を追い込まないことだけ

問2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

組織は、まず自らがかわる環境を把握し、それにもとづいていかなる政策や措置をとるべきかという決定をし、それを実行に移す。そしてまた、実行された政策や措置によって環境がどう変わったかを見直し、政策や措置を再検討し、それを実施するという営みを繰り返している。専門用語でいえば、組織は、の三つの活動のサイクルを繰り返している。

(遠田雄志『組織を変える〈常識〉』)

問い：空欄に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 把握、方策修正、それに実行
- ② 観察、状況分析、それに実行
- ③ 認識、意思決定、それに行為
- ④ 経過観察、分析、それに行動
- ⑤ 現状把握、審議、それに行為

問3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

もしここで、有性生殖しながらも利他的な死の遺伝子が存在しなかったらどうなるでしょう。つまり、一つの個体が200年も500年も生きられたとしたらどうでしょう。その間に環境は変わるでしょうし、なによりも生き続けている自分自身が変わってしまいます。そういった変化に人間の意識はついてゆけるのでしょうか。今の脳の容量（脳力）では何百年という時間的な変化を認知することができなくなってしまうはずです。おそらく何百年もの間、自らの同一性を保ちながら変化してゆくことはできないでしょう。結局は自らを問うということもできなくなってしまう、自己の存在が空虚なものになってしまうにちがいません。

（田沼靖一『ヒトはどうして老いるのか—老化・寿命の科学』）

問い：筆者の主張として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 人間が何百年という時間的な変化に耐えられないのは、環境の変化に対応できないためである。
- ② 自己の同一性を保ちながら何百年もの変化に対応するために、脳の容量を大きくするべきである。
- ③ 死の遺伝子は、一見利他的だが、自己の存在を空虚なものにしないという点で利己的といえる。
- ④ 現状の人間の脳では、数百年という時間の経過を認知することができないため、何百年も生きることは不可能である。
- ⑤ 現状の人間の脳では変化に対応できないため、何百年もの間自分自身として生きることは不可能である。

問4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

世界が、すべてが、そもそもその全体において理解しうるものであるとはかぎらない。そんなあらかじめの保証など、どこにもない。むしろ、せいぜい思考にできるのは、世界の中からおのれの理解しうる部分を取り出してこることぐらいだと言った方が、よほど実情に近い。思考が捉えたすべてが、本当に「すべて」であることを保証することなど、できないのだ。思考は、おのれが捉えうるものを^{もっ}以て、それがすべてだと^{せんじょう}僭称しているにすぎないかもしれないではないか。だが、思考が捉えうるすべてを超えた、本当の「すべて」とは何か。もしこの言明に意味があるとすれば、後者の「すべて」もまた、実は思考が捉えうるものにすぎない。しかしそうであれば、この言明は自己矛盾に陥らざるをえない。それは、「」と言っていることになるからだ。この言明は、それが無意味になることによって、思考の限界を示すことしかできないのだ。

(斎藤慶典『哲学がはじまるとき—思考は何／どこに向かうのか』)

問い：空欄に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 思考の捉えた限界が、思考の限界ではない
- ② 思考を超えたものが、思考を超えていない
- ③ 本当の「すべて」が、すべてではない
- ④ 思考が捉えうる「すべて」が、すべてではない
- ⑤ この言明が無意味になることに意味がある

問5 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

むかしの人たちは、一つの事象を見る眼が、それぞれにちがっていた。

見方によれば、

「悲劇も喜劇になる」

わけだし、また、

「喜劇も悲劇になる」

のである。

たとえば、この一巻におさめられた「コック部屋の独唱」を読んでみても、

世界一の歌手といわれたカルーソーが、ニューヨークのレストランのコックたちの好意にむくいようとして、汚いコック部屋へ、わざわざ出向いて行き、世界一の喉をきかせる。コックたちは大よろこびし、居合わせた客もカルーソーの心意気に感服する。

「なるほど」

と、私のように、素直にカルーソーの心意気を受けとめる人もいるだろうし、そのとき、カルーソーと共にいた友人のように、

「コック部屋で独唱するなどとは不見識きわまる」

そうおもう人もいるだろう。

そして、この見方も、それはそれで一理あるのである。

この一巻におさめられた、多彩なエピソードは、読者の、それぞれの個性によって、さまざまな受けとめ方が可能だ。

それはつまり、エピソードに登場する人物の個性が、きわ立っているからに他ならない。

(池波正太郎『作家の四季』)

問い：空欄に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 悲劇とするか喜劇とするかは読者によって異なるだろう
- ② 何を好意とするかは読者によって異なるだろう
- ③ 見識の高さは読者によって異なるだろう
- ④ 読者の受けとめ方は同じではないだろう
- ⑤ それを受けとめる読者の個性は同じではないだろう

問6 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

乳児が人の顔を見て微笑^{ほほえ}むことは生後2、3ヵ月ごろから見られる。この微笑が生じるのは一般に乳児にとって空腹などの状態にない、何らかの満足の状況にあることを示すとされる。しかし、そこに現れた人を他の人と区別したうえでの反応とは考えられない。見知らぬ人に対してだけでなく人形の顔に対しても微笑が生じるからである。6ヵ月過ぎごろあたりから、特定の人に対してのみ微笑が生じ、見知らぬ人に対しては顔をそむけたり、泣きだしたりする。

ここで生じていることは、それ以前のその場その場の状況に に対応していた反応に対して、子どもが自分のいる場、状況を区別してそこで行うべき振る舞いを に行うようになることを示している。

(永田良昭『心理学とは何なのか』)

問い：空欄A・Bに入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- | | | |
|---|--------|-------|
| ① | A：固定的 | B：選択的 |
| ② | A：偶発的 | B：意図的 |
| ③ | A：無意識的 | B：意識的 |
| ④ | A：普遍的 | B：恣意的 |
| ⑤ | A：受動的 | B：能動的 |

問7 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

或る日、運動場の隅の方へ行くと、同級のFがひとりで木馬に凭^{もた}れていたが、彼が近づくのを認めるなり片手を差し上げて、「ねえ、あの山の上方を見給^{たま}え。あの真青^{まっさお}な空をだ。破けやしないかね。あの青い所をちょっと指先^{つま}で突いたら、卵の殻みたいに破けて、向こう側^{のぞ}が覗けるようでないか——いまにも」
 そう云われてみると成程^{なるほど}！ 雲片一つ見つからぬ紫がかった春の空は、少しの皺^{しわ}もない、そしてたいそう脆^{もろ}い膜のようであった。

(稲垣足穂『一千一秒物語』)

問い：この文章に見られる表現上の工夫として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 空の色を「真青」「紫」とすることで、見る人によって異なる微妙な色合いであることを表現している。
- ② 「いまにも」を文末におくことで、もうすぐにでも空が破けそうな様子を強調している。
- ③ 「ちょっと指先で突いたら」と表現することで、手が届きそうに空の近いことを暗示している。
- ④ 同級生の名前を「F」として匿名にすることで、神秘的な雰囲気を出している。
- ⑤ 語尾を「見給え。」「～かね。」などすることで、登場人物の人間関係を暗に示そうとしている。

問8 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

この季節はあかるすぎて
文字が読めないから
水の底の小石の数をかぞえよう
えのころ草の穂をしらべよう

これは岸田^{きしだ}^{えりこ}さんの詩だけれど、私は学校や会社に通っていた十年間に、毎年たっぷり実感していた。春になると、電車の読書がちっともはかどらないのだ。晴れた日は窓越しに空気の粒がぴかぴか光り、時々はっとするほど鮮やかな黄色でれんぎょうが視界にとびこんできて、れんぎょうの横にはたいてい雪柳か^こ小手^{でまり}鞆が、こぼれそうに白く咲いている。雨の日は雨の日で、交互に植えられたさみどりの柳と淡いピンクの桜とが、線路ぞいにふわふわにじんでとろろこぶのおつゆみたいになり、ついつい目をみはってしまう。水の底の小石も、えのころ草の穂もない、東京のはじっこにいてさえそうなのだから、まったく、春というのはとんでもない季節だと思う。

(江國香織『都の子』)

問い：この文章に見られる表現上の工夫として誤っているものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 「たっぷり」「ぴかぴか」「ふわふわ」などの副詞を使うことで、イメージを感覚的にわかりやすく伝えている。
- ② 「黄色」「白」「さみどり」「ピンク」など、色名を多く使うことで、春の景色の色鮮やかな様子を表している。
- ③ 筆者の視点を通して景色を描写することによって、その場にいるかのような感覚を読者に与えている。
- ④ 「水の底の小石も、えのころ草の穂もない」東京の春と対比することによって、詩の春の「あかるさ」を際立たせている。
- ⑤ 「まったく」「とんでもない」という口語的な表現によって、春に対する感嘆の思いを強調している。

問9 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

本ぶりに成^{なっ}て出^ゆて行^ゆく雨やどり

にわか雨ですぐ止むだろうと思って雨宿りをしていたら、止むどころかどんどん本降りになってきた。しかたなくずぶ濡^ぬれになって出て行くという光景です。「小降りのうちに走っておけばよかった」と人生経験を連想させるところもあって、共感を呼ぶ句です。

(小栗清吾『はじめての江戸川柳―「なるほど」と「ニヤリ」を楽しむ』)

問い：「人生経験を連想させる」とあるが、ここで連想される人生経験を表した慣用表現として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 後悔先に立たず
- ② 急がば回れ
- ③ 喉もと過ぎれば熱さ忘れる
- ④ 先んずれば人を制す
- ⑤ 雨降って地固まる

問10 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

対立したときに負かされるのは常に姉である私のほうだった。

「ねえ、私らしさって何？ 私にもわからんのに、お姉ちゃんにわかるの？」

珠美に出せない答が私にわかるわけがない。

観念してスプーンを放した。匙を投げる、ってこういうことを言うんだなあ。

そう思いかけて、慌てて空の右手をぎゅっと握る。ここで投げちゃいけない。

珠美にわからなくて私にわかるもの。もしもそんなものがあるとしたら—
当の珠美のことだけだ。

うまく言葉になりそうになかった。でも、なんとか伝えなければならない。

「珠美は珠美の中のひとだから、中のことは珠美に任せる。でもね、外から見る珠美は珠美にはわからないよね」

外から見る珠美も、また珠美なのだ。珠美は気づくべきだ。私から見える珠美。珠美の知らない珠美。珠美の気づかない珠美のしぐさ、表情、ふるまい。それは案外珠美自身を語っている。 (宮下奈都『メロディ・フェア』)

問い：「なんとか伝えなければならない」とあるが、伝えなければならないこととはどのようなことか。30字以内で答えなさい。

問 11 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

当時は何も言わなかった同僚の一人から、耕衣は30年後になって、聞かされた。

「あのときのきみの放言は、ほんとにひどかった。いまもおぼえてる」
本来なら許せない、迷惑した、^{へきんき}辟易したよと——、その表情が語っていた。
耕衣は反省して、書き残す。

「赤裸々という如何にも虚飾なき端的な名語があるが、その立派さに幻惑されてはダメだ。赤裸々であるべき、また赤裸々であっていい精神的肉体は、たとえばギリシャの古代彫刻の如く、一点の非の打ちどころのない健やかにも完全な美のボディであってこそ意味があるのだ」

と。

ギリシャ彫刻のような「精神的肉体」を持つ人間が、どこに居るのだろう。
多くの人がそうであるように、耕衣にもその自信はない。

それなら、どうするか。

耕衣は教訓として書く。

「醜悪愚劣な正体にはその度に応じた適切な衣服をまとうべきである」

(城山三郎『部長の大晩年』)

問い：「その自信はない」とあるが、どのような自信か。40字以内で答えなさい。

問12 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「その辺は、お父さんより、あたしの方が分かると思うな」

桜木さんは、眉を寄せ、ちょっと酸っぱい顔をした。不満そうだ。

「馬鹿にするなよ」

「あ」美也子さんは、悪戯^{いたづら}っぽい顔になり、「仲間はずれにされたと思った
んでしょう」

「そのようだけど、いやいや、やっぱり違うなあ」

「どういうこと」

美也子さんは、すぐに突っ込んだ。この人の心は、疑問があればたちまち、
そちらに向かう。

「つまりさ、お前の今の発言は、《俺には想像力がない》ってことだぞ」

わたしは、そこで、この人を見直す気になった。中年の、お腹^{なか}の出たおじ
さんだけれど、この人のいうことは、核心を突いている。美也子さんや、わ
たしから見たら、こういうおじさんに、想像力などという言葉は似合わない。
残酷だけれど、その取り合わせは、いささか滑稽ですらある。

しかし、今のわたしが、自分をきちんと見つめてもらおうとするなら、相
手にそれを要求するしかない。——知恵を拾うと共に捨てて来た柔らかな心を。

(北村薫『スキップ』)

問い：この文章において、「想像力」と同じ意味を表している箇所はどこか。20字
以内で抜き出しなさい。

【大問2】 次の文章と資料を読んで、後の各問いに答えなさい。（全5問／配点30点）

国民の健康増進の推進に関する基本的な方向や、健康増進の目標に関する事項を定める「健康日本21」では、全ての国民が「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」を「健康寿命」と定義し、その延伸を中心課題と位置づけている。

その理由の一つとして、少子高齢化にともなう④社会保障給付費の増大がある。一般には、高齢化率が7%を超えた社会が「高齢化社会」、14%を超えた社会が「高齢社会」、21%を超えた社会が「超高齢社会」と定義されている。この定義によれば、日本は1970年（昭和45年）に高齢化社会、1994年（平成6年）に高齢社会、2007年（平成19年）に超高齢社会となった。図1に示すように、高齢化率の上昇にともなう、年金・高齢者医療・老人介護サービスなどの高齢者関係給付費を含む社会保障給付費は、増大し続けている。今後も高齢化率が上昇することが予想されていることから、健康寿命を延ばすことによって、高齢者関係給付費の消費期間を短縮することが重要である。

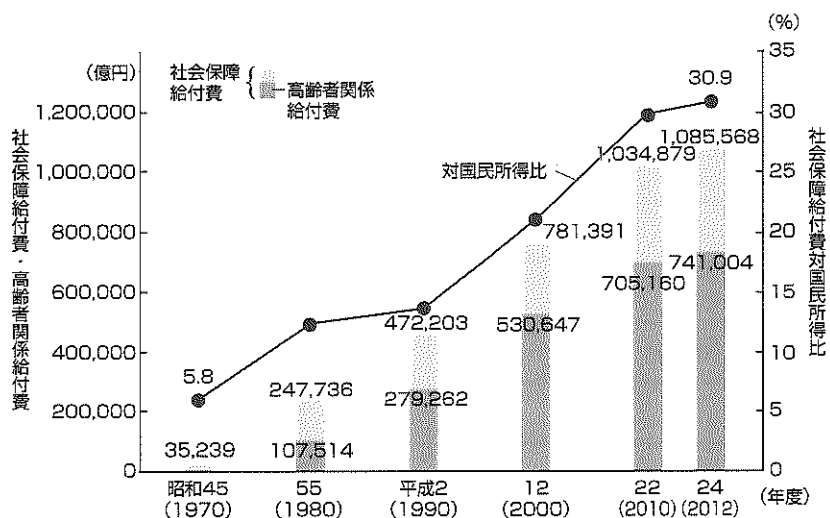
そのさいの具体的な目標値として使用されるのが、から求められる「㉓不健康な期間」である。図2によると、2010年（平成22年）の不健康な期間は、男性約9年、女性約13年であった。不健康な期間を短縮するためには、平均寿命の延び以上に健康寿命を延ばすこと、つまり不健康な状態になる時点を遅らせることが必要である。

健康寿命の延伸をスローガンとする、厚生労働省による国民運動を「スマート・ライフ・プロジェクト」という。現在、④がん・心臓病・脳卒中などの生活習慣病が死因の約6割を占めていることから、スマート・ライフ・プロジェクトでは、生活習慣病の予防が重要であるとして、「適度な運動」「適切な食事」「禁煙」の3分野を中心とするアクションを呼びかけている。

また、健康寿命では、地域による格差も指摘されている。表1は、都道府県別の日常生活に制限のない期間の平均を示したものである。これを見ると、ことがわかる。健康寿命を延ばすために、各自治体には、こうした自治体間の格差の要因を把握・分析し、取り組みを行うことが求められている。

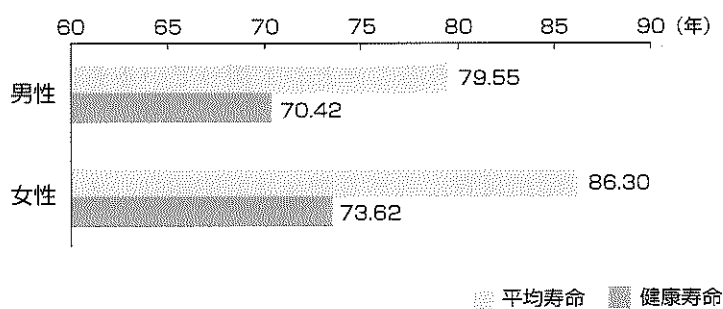
健康寿命の延伸は、社会保障などの財政の観点からだけでなく、個人の生活の質の点からも非常に重要であり、国民全体を巻き込んだ取り組みが急務である。

図1 社会保障給付費の推移



(「平成24年度社会保障費用統計」国立社会保障・人口問題研究所をもとに作成)

図2 平均寿命と健康寿命



(「平成22年完全生命表」厚生労働省, 「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」厚生労働科学研究費補助金をもとに作成)

表 1 都道府県別 日常生活に制限のない期間の平均 (2010 年)

男性			女性		
順位	都道府県	日常生活に制限のない期間の平均 (年)	順位	都道府県	日常生活に制限のない期間の平均 (年)
1	愛知	71.74	1	静岡	75.32
2	静岡	71.68	2	群馬	75.27
3	千葉	71.62	3	愛知	74.93
4	茨城	71.32	4	沖縄	74.86
5	山梨	71.20	5	栃木	74.86
} (中略)			} (中略)		
43	岩手	69.43	43	徳島	72.73
44	大阪	69.39	44	福岡	72.72
45	長崎	69.14	45	大阪	72.55
46	高知	69.12	46	広島	72.49
47	青森	68.95	47	滋賀	72.37

(「平成 26 年版厚生労働白書」厚生労働省をもとに作成)

問 1 下線部①について、図 1 から読み取れることとして誤っているものを、次の

①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 高齢者関係給付費の社会保障給付費に占める割合は増加傾向にある。
- ② 2012 年度の社会保障給付費の約 7 割を、高齢者関係給付費が占めている。
- ③ 社会保障給付費のうち高齢者関係給付費以外の額は減少している。
- ④ 社会保障給付費全体について、2012 年度は過去最高の水準となった。
- ⑤ 社会保障給付費の国民所得に占める割合は 40 年間で約 5 倍に上昇した。

問 2 文章の内容を踏まえて、空欄②に入る語句を、15 字以内で答えなさい。

問3 この文章において、下線部㉔と同じ意味を表している内容を、19字で抜き出しなさい。

問4 下線部㉕の要因と考えられることとして誤っているものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 科学技術の発達による、家事や仕事の機械化。
- ② 公共の場所や飲食店などでの禁煙・分煙の実施。
- ③ 動物性たんぱく質や脂質の多い食生活への変化。
- ④ 加工食品や特定食品への依存、過度のダイエット志向。
- ⑤ 自動車の普及、バスや鉄道などの交通手段の発達。

問5 空欄㉖に入る説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 健康寿命について、都道府県ごとに特定の傾向は見られない
- ② 愛知県の健康寿命は、男性は第一位だが、女性は第三位にとどまっている
- ③ どの都道府県に関しても、健康寿命に男女間で平均4年の差がある
- ④ どの都道府県に関しても、健康寿命は男性よりも女性のほうが長い
- ⑤ 都道府県によって、健康寿命に最大で約3年の差がある

(以下余白)